



なりました。しかし、そんな気持ちもこの便教会が変えてくれました。同じ班の方々が「便器がきれいになつてると、がんばれ！」と笑顔で見守つてくださつたり、掃除を終えた後には、「一所懸命磨いてる姿が輝いてたよ、一緒に掃除ができる良かつた。」と言つてくださいました。

私はこの時、夢や目標に向かつて必死になつて頑張り、汗を流しながらも全力で取り組むことは、決してかっこ悪いことでも、無駄なことでもないんだと気づき、あの時かけて頂いた言葉が今も私の頑張る支えとなつていています。「トイレ掃除をする」という一つの行動であつても、トイレ掃除には計り知れないパワーがあり、掃除をすればするほど私に必要な学びを伝えてくれています。

私は今、養護教諭をめざして勉強をしていましたが、週に一度、愛知県内の小学校で保健室ボランティアをさせていただいています。その際には、子どもたちから「トイレ掃除が嫌だ、トイレは汚い。」と言われるのも珍しいことではありません。反対に、「トイレ掃除が好き。」と言つてくれる子どもたちは、なかなかいません。子どもたちのトイレに対する素直なイメージは、私が去年最初に思つていたイメージとそつくりでした。そのため、この便教会で得たあの快感やトイレ掃除の大切さを私一人で終わらせるのではなく、子どもたちと共にトイレ掃除を行いながら伝えていきたいと考えています。教員は、子どもたちにトイレ掃除を含め、「しっかりと掃除をしなさい。」と指導する立場ではありますが、私が去年の便教会で感じることができたように、

たのです。

トイレを素手で触ることで便器の裏側など、目だけでは判断できない汚れ、つまり新たな発見をすることができるのだと知りました。ザラとしていた掃除をする前の便器は、ひたすら磨いていくとツルツルになり「あ！綺麗になつた！」と気づくことができるのは素手でしか感じられない事でした。掃除を続けていくと本当にあつという間に時間が過ぎてしまい、終了した後でも掃除し足りないという気持ちでいっぱいでした。便器が綺麗になつただけではなく、あの嫌な臭いが広がっていたトイレ内の空気も綺麗になり、清々しい気持ちになりました。掃除後は、掃除道具を綺麗に洗い、次回使用する人が気持ち良く使えるようにするという、最後まで配慮を忘れないことも強く印象に残りました。元々掃除をすることが好きだった私は、今までの掃除はただ表面的に行つていて満足していたかもしません。しかし、この便教会で掃除に対する考えが変化していきました。しっかりと腰を落として視点を変えることで見逃していいた汚れを発見することができ、意味のある掃除が行えるのだと実感しました。

そして今回の「第十八回便教会総会」では、人生で二回目の便教会でした。トイレ掃除を去年経験した私は、不安よりも楽しみという気持ちの方が大きくなつていきました。その楽しみといふのは、トイレ掃除だけではありません。多くの経験を積んだ方々との出会いも期待していました。去年と同様、一日目は便教会を通じた学びを聞きました。今回の発表者は二人とも教

体験してみなければ分からぬことが必ずあると思います。ただ言葉で伝えるだけでは、トイレに対するマイナスなイメージはなくなるどころか、どんどん増えていくつてしまつます。

だからこそ、私自身が楽しみながら一所懸命にトイレ掃除をしている姿を子どもたちに見せ、きれいを子どもたちと共に広げていけたらと思っています。この便教会に参加せずに教員の道を進んでいたら、「トイレ掃除をしなさい。」とただ言葉で指導してしまい、自分の成長も子どもたちの成長も見えない教員になつてしまつたかもしれません。指導をすることも教員として大切なことであると思いますが、言葉だけではなく、私自身の行動で示していく養護教諭をめざしたいです。それはトイレ掃除だけではありません。時間を守ること、ごみが落ちていたら拾うこと、人の気持ちを考え行動すること、挨拶をすること、全ての行動がそうであると思います。今回、トイレ掃除をきっかけに私は大きく成長することができました。

最後になりますが、教育者になる前にこのような経験を一度もさせていただけたことを本当に嬉しく思っています。声をかけてくださったゼミの梶岡先生、教育者としてはまだ未熟な私たち学生を、優しく温かく迎え入れてくださった先生方には本当に感謝しています。養護教諭になるという大きな夢、そして子どもたちと一緒にを広げていくという輝く夢を叶えられるよう、精一杯頑張ります。

先述したように私は現在、養護教諭をめざして日々勉強をしている私にとっても興味深い内容でした。学校現場に出たう子どもたちに掃除の指導をすることも教師の役目です。しかし、言葉掛けだけや掃除をする振りをしていては子どもの心は灯はつきません。しっかりと子どもと同じ目線になりながら行なうことが大切であり、また、子どもの心を動かすためにはまず自分の行動を見直さなければならぬのだなと学ぶことができました。そして、「一日目はそれぞの場所に分かれて気持ちの良い汗を流しながらトイレ掃除を行いました。トイレ掃除をして改めて思ったことは、素手でトイレ掃除を行なうこの感動は実際にやつてみなければ感じられない」ということです。一泊二日と密度の濃い時間を過ごすことができたのは、高野修滋先生をはじめ多くの方が私たち学生を温かく迎えてくれました。腰を低くして掃除をしなければ見えて来ないものがあるように、養護教諭も

## 『便教会による様々な気づき』

東海学園大学 三年

久保 奏絵

私が便教会の存在を知ったのは一年前のゼミの時間であり、どのような活動をしているのかは名前だけでは全く想像がつきませんでした。この便教会に参加された先輩方の感想が記載されている便教会新聞を見て衝撃を受けたのを今でも鮮明に覚えています。素手でトイレ掃除をする。私たちが毎日、排泄物を出しているあの汚いトイレをさすがに素手で触れるわけがないと、正直最初は信じていませんでした。しかし、初めて便教会に参加した一年前、夢中になつて素手でトイレ掃除をしている自分がいました。今まで学校や家のトイレ掃除を経験したことあります。しかし、顔がトイレの便器についてしまったからこそ、私の人生においてトイレ掃除を「楽しい！」と感じることもなかつたかもしれません。指導をすることも教員として大切なことであると思いますが、言葉だけではなく、私自身の行動で示していく養護教諭をめざしたいです。それはトイレ掃除だけではありません。時間を守ること、ごみが落ちていたら拾うこと、人の気持ちを考え行動すること、挨拶をすること、全ての行動がそうであると思います。今回、トイレ掃除をきっかけに私は大きく成長することができました。

最後になりますが、教育者になる前にこのような経験を一度もさせていただけたことを本当に嬉しく思っています。声をかけてくださったゼミの梶岡先生、教育者としてはまだ未熟な私たち学生を、優しく温かく迎え入れてくださった先生方には本当に感謝しています。養護教諭になるという大きな夢、そして子どもたちと一緒にを広げていくという輝く夢を叶えられるよう、精一杯頑張ります。

先述したように私は現在、養護教諭をめざしています。育ち盛りの子どもたちを相手にするため、私自身が多く経験を積み、人間性を高めなければ務まらない職業でもあると思います。大学での勉強だけではなく、子どもたちと関わる機会を少しでも増やすようにボランティアなどにも参加しています。この便教会も最初は、教育には直接関係なく掃除の仕方が学べるのかと興味本意での参加でした。しかし便教会を終えた後には、私が思つていた以上の学びや気づきがありました。腰を低くして掃除をしなければ見えて来ないものがあるように、養護教諭も

保健室に来室する子ばかりに注意を払うのではなく、保健室に来ない子、保健室に来られない子たちにも配慮し、自ら足を運んで全校児童生徒と積極的に関わらなければ、学校全体の健康を守ることはできないということがわかりました。また、この便教会は普段の生活を見直すきっかけにもなりました。人間性を高めるためにも普段から視野を広げるよう意識し、養護教諭としての力量を少しでも向上させるために、これからも精進したいと思います。

便教会で経験した、言葉では表すことのできない多くの感動はこれから先も忘れることはあります。便教会という一つの活動から視点を変えることで様々な気づきがありました。このような貴重な経験をさせていただく機会を作つてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。私も皆様のように志高い人間となり、養護教諭という夢を叶えられるよう頑張ります。

ありがとうございました。